

Vol.2
月信
R.I.D 2650

2001.8.15

新世代月間を考えるとき

国際ロータリー第2650地区
2001～2002年度ガバナー

西村 二郎



1923年、セントルイス国際大会で「善良で健全な市民を育てる」ための青少年奉仕活動が検討されました。1996年～'97年度には、ジャイR.I.会長が従来からの青少年活動月間を「新世代月間」と改め、「新世代のための会議」を提案されました。その使命は、多様化した社会のニーズに対応して、健康・人間の価値・教育と自己開発など、年齢30歳までの若い人々の基本的ニーズを、支援するプロジェクトに着手するということです。ロータリーでは、9月をこの月間と決めました。

本年度R.I.テーマ

Mankind is our business
- 人類が私たちの仕事 -

に向かって、次世代を担う青少年を、支援することが主眼点であります。このR.I.のテーマを「人類に奉仕することが私たちの仕事」と理解すれば難解なテーマではなく、ロータリアン個人が、そしてクラブがそれぞれの立場で、自主性をもって実践すれば「青少年への支援」も容易なことだと考えます。

健康は心身ともに健在であることです。世界の次世代を担う子供たちの中には「飢餓に苦しむ子供たち」「病気に苦しむ子供たち」「地雷で足を失った子供たち」など、恵まれない多くの子供たちがいます。この子供たちに手を差し伸べることによって、ともに喜びを分かち合うことができるのです。

感受性の強い世代の青少年には、どのように触れ合えば、精神的安堵を与えることができるのでしょうか。このように新世代のための教育も、また重要なプログラムです。画一的な学校教育に対して、家庭における教育をどのようにすべきかを考えなければなりません。子供のもつ個性をのばすため、親としての対話やあらゆる機会での親子の接点も必要ではないでしょうか。

賀川豊彦氏は「子供には叱られる権利がある」と言っておられますが、それを裏返せば、大人には社会人の先輩として「子供を叱る責任がある」と考えられます。

宇治ロータリークラブの2000～'01年度「新世代のための会議」の報告書を読みますと「大人って何...、大人と子供の境界線...」について語られていました。その中で、あるお母さんが娘について「娘を見て大人かなあ - ?と思う時、身体を見たら充分大人だと.....、しかし、知識も経験も豊かな大人が話をしてみると、やはり子供だと感じる」と言っておられました。身体的には大人であっても、知識にバランスがとれず、親から見ればやはり子供であると実感されています。現代の青少年との触れ合いには、このお母さんのような感覚が必要ではないでしょうか。

地域社会奉仕の一つとして「次世代を担う青少年の多様化しているニーズにどのように対応するか」があります。ロータリアンが善良な市民の模範となり、ロータリークラブが地域社会レベルで新世代の青少年と話し合っ、希望や夢、抱負について相互理解を深めることが肝要です。

今年もローターアクトクラブでは「アクトの日」を、青少年委員会では「新世代のための会議」に因んだプログラムを計画していますので、ロータリアンの皆様のご協力を期待しています。

第92回国際年次大会（米国・サンアントニオ）に参加して

国際ロータリー第2650地区
2001～2002年度ガバナー

西村 二郎

Convention Count
24,040 Registrants
131 Countries
*as of 26 June

2001年6月24日～27日、第92回国際ロータリー年次大会が、米国テキサス州サンアントニオで開催されました。23日にサンアントニオに着き、指定されたMarriott Rivercenter Hotelに入りました。早速、2000年12月31日現在の第2650地区6,038会員、91クラブから提出頂いた代議員数120名の「信任状証明書および投票代議員カード」を国際大会信任状委員会に提出致しました。



24日の夕方、大会開催の本会議が行われましたが、乗馬によるロータリー加盟国の国旗入場はテキサスのカウボーイ文化であり、国際性豊かな素晴らしい大会への盛り上がりを感じさせられました。また、余興番組のゲスト、リック・カペンター・バンドグレン・キャンベルが、懐かしいメロディーを聞かせてくれました。

大会には4回の本会議がありましたが、2月のカリフォルニア州アナハイムでの国際協議会とは異なり、終始和やかな雰囲気と笑いが会場に漂っていました。

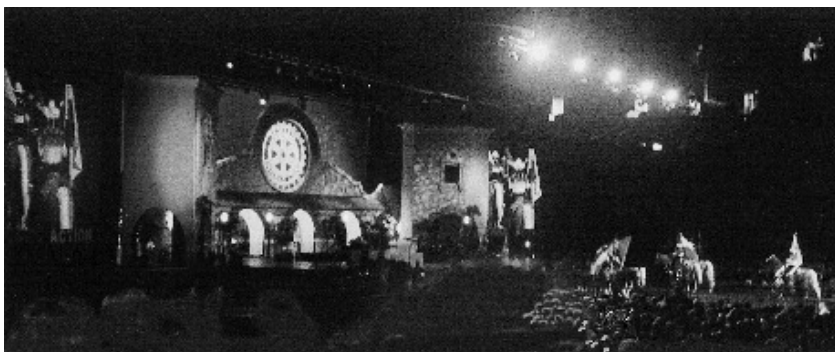
第3回本会議はロータリー財団に関することで、多くの会員が表彰を受けられました。財団管理委員の千宗室R.I.元理事が登壇され、紹介されましたが、掲載できる写真が撮れなかったのが残念でした。ハーバートG.ブラウンR.I.財団管理委員長は、財団への貢献は「奉仕の心」とスピーチされ、ブラモッド・カラン・セスイ受賞者は、地雷で脚を失った人のための義足を、より良いものに改良したことについて話され、誇りに満ちた喜びを感じておられるように思いました。

会長エレクト主催昼食会には、日本のガバナーエレクトたちと出席しました。国際協議会からわずか6カ月しか経っておりませんが、みんなの大きく成長した姿に驚きました。

26日夜には、組織委員会主催の牧場パーティーがあり、参加されたロータリアンは南部の雰囲気を十分に満喫され、その中でも千宗室R.I.元理事は鮮やかな手綱さばきをみせられ、乗馬を堪能されたようでした。

最終日の第4回本会議では役員の選挙が行われ、タイ・バンコック トンブリーロータリークラブのピチャイ・ラタクル氏が2002年～03年度R.I.会長を受諾されました。またリチャードD.キングR.I.会長の副会長として、昨年10月、京都での会員増強セミナーに参加された台湾台北ロータリークラブのゲイリーC.K.ホアン氏が指名されました。

ガバナーノミニ宣言を受けてから国際ロータリー年次大会には、シンガポール、プエノスアイレスと今回の3回参加したことになります。その都度、参加の思いが違っておりますが、今回は数日後にガバナーに就任する緊張感をもった参加でした。それでもヤナグアナ・リ



バーボート・クルーズや史跡などを見て、夫婦でサンアントニオの町を楽しみました。

いつの日か、この3回の国際ロータリー年次大会への参加が、私の人生物語を価値づけてくれることと信じています。

- 9月は新世代のための月間 -

未来は新世代がつくるもの

地区青少年委員会 委員長 **森定 秀夫**
(京都西北RC)



ロータリアンは新世代に対して、道徳、倫理観をしっかり持って、より良い社会を築くために貢献できる人材を作ること、また、「善良な市民」として成長していく過程において、地域の指導者と対話して、自分たちの未来の夢、抱負を明確にして、自分たちと居住地域社会に起る問題の解決策の場を、提供していかなければなりません。そこにライラの必要性、重要性があるのです。

RYLA “Rotary Youth Leadership Awards” とは、オーストラリアで開発された、青少年を対象としたロータリープログラムのひとつで、日本では「ロータリー青少年指導者養成プログラム」と訳され、14歳から18歳と、19歳から30歳までの青少年を対象にした、二つのRYLAを開催するようになっています。

目的とするところは「若い人々の指導者および善良な市民としての資質を伸ばす」ことにあり、特に“地域社会の市民であるということ、世界社会の市民であるということ”を認識させ、日本では1976年から始められています。

当地区（福井県、滋賀県、京都府、奈良県）でも、セミナー形式で指導者となり得る青年男女を対象に、1980年から毎年続けて開催しております。

選ばれてRYLAに参加するのは、地域社会の中であって、将来その地域の指導者となる資質を持ち、社会の発展に貢献しようとする、志向を持った人達です。RYLAは、こうした人類社会の将来を担っていく若い人々に、身近なテーマを中心として、仲間と共に学び、自ら考え、問題解決の道を探る訓練の場を提供するものです。

RYLAは、その活動の中心として、次の主題に取り組まなければならないのです。

1. 指導力の基礎
2. 建設的指導力の倫理模範
3. 効果的指導力にやける伝達力の重要性
4. 問題解決と紛争管理
5. ロータリーとは何か、ロータリーとは地元社会で何をしているか
6. 自信と自尊心を培うこと
7. 地域社会の市民であり、世界の市民であるという要素。あわせて地元に関連があり、地元の慣習にふさわしい方法で、遂行されている問題を考察する。

当地区に於ける新世代ライラのプログラムは、地域の中で、将来指導的役割を果たしていこうとする新世代の若者と、ロータリアンが、2泊3日の研修の中で、お互いの「連帯と思いやり」を通して感動を生み出し、真の人間関係を築くことを目的としています。

今回のRYLAは、関西学研都市として発展中の“京田辺市”の地域で、ウォークラリーを通じ、ライラ受講生全員を、いくつかのグループに分けて行います。グループごとに、スタッフの方々を中心に、いろいろな角度からミーティングを重ねることにより、生まれる連帯と協力と信頼関係は、大きな成長につながるはずであります。ウォークラリーを、人生の生き方と考えた時、「事実を正しくとらえること」「トラブルの解決を考える能力」「自分なりの信念を持つこと」を養うには最善の体験であると思います。こうした若者との行動派、将来若者との奉仕活動に、大きな役割を果たす基礎になるでしょう。そしてロータリアンと若者とが、目線を合わせて理解し合う機会にもなるのです。

未来を託す青少年達、ライラへの認識を深めていただきたいと思います。

- 9月は新世代のための月間 -

新世代の指導者に

地区ローターアクト委員会 委員長

長崎 一幸

(舞鶴東RC)



ローターアクトは、短期間に急速に、しかも大々的に発展してきました。ローターアクトの目的は、青年男女が個々の能力の開発に当って、役立つ知識や技能を高め、それぞれの地域社会における物質的、または社会的ニーズを取り込み、奉仕と親睦を通じ全世界の人々に、より良い信頼関係を推進することにあります。そしてロータリアンにとっては、次代を担う指導者として、またロータリアンへの期待を込めて育成するものです。

1968年6月1日、川越RC提唱、国際商科大学ローターアクトクラブが、最初に誕生致しました。その年の9月16日、当2650地区において、日本で2番目のローターアクトクラブが京都西RCにより提唱され、京都外国語大学ローターアクトクラブが誕生しました。現在、国内においては431クラブ、約6,200名を数えるアクターが活躍しており、当2650地区においては37クラブ、約600名が活躍しております。その数は国内最大のクラブ数、会員数を誇る地区であり、R.I.指導のもと、年間を通じ奉仕と親睦にとアクト活動を展開しております。

年間行事の一つに、ロータリークラブ・ローターアクトクラブが1つになって活動する行事があります。その行事は世界ローターアクト週間であり、R.I.によって特別行事として奨励されております。世界ローターアクト週間とは、ローターアクトクラブと提唱ロータリークラブが、3月13日を含む週に、世界ローターアクト週間を世界各地で祝います。この祝うべき日は、最初のローターアクトクラブが、国際ロータリーに正式に加盟認証された日に当たります。この週間を祝うに当り、ローターアクトクラブは提唱ロータリークラブと合同で、提携活動を遂行するよう要請されるものです。世界ローターアクト週間・クラブ行事の内容とは、世界ローターアクト週間(3月13日を含む週)を祝うために、3月中に4つの活動を完了することです。また、活動をすべて完了したローターアクトクラブには、国際ロータリーより、ローターアクト記念バッジを授与されることとなります。4つの活動とは

1. ローターアクトクラブを提唱していないロータリークラブに、ローターアクトについて講演し、または提唱するよう手紙を書く。
2. ロータリアンを、ローターアクトクラブ例会に招待する。
3. ローターアクトクラブ例会に、ローターアクターを招待する。
4. 地域社会の関心を呼ぶため、ロータリー・ローターアクト共同プロジェクトを実施することです。

世界ローターアクト週間・クラブ祝賀行事を実施することにより、各ローターアクトクラブが提唱ロータリークラブと連絡を密に取り、定期的に協議する場を持つことは、提唱ロータリークラブに、ローターアクトクラブの活動を理解頂くことになり、今後のローターアクトクラブの発点の大きな要因となります。世界ローターアクト週間・クラブ祝賀行事の実施は、そのよい機会であると考えます。

次代を担う指導者育成のために、より一層のローターアクトクラブへのご支援、ご協力を頂きますようお願い致します。また、未提唱ロータリークラブは、是非ローターアクトクラブをご提唱頂きますよう重ねてお願い申し上げます。

- 9月は新世代のための月間 -

青少年も私達の仕事です

地区インタラクティブ委員会 委員長 **雀部 俊彦**
(福知山西南RC)



リチャードD.キングR.I.会長は、誓約を行い、その誓約を果たすのが、ロータリアンの生きる道であること、そして人類が私達の仕事であると説いておられます。

インタラクティブ活動は、人道的奉仕の精神を持って14歳から18歳までの青少年・高校生のための、ロータリーが提唱する奉仕クラブです。明日を担う指導者を育成する素晴らしい仕事の一つです。

若い人と共に行動することは、新世代の若い人をよりよい社会人に導くことでもあり、地域社会に、また国を越えて世界に目を開かせることでもあります。

青少年も私達の仕事です。活動例を紹介します。

世界108カ国	7,172クラブ	167,000名
第2650地区	17クラブ	430名

第2650地区インタラクティブクラブ活動例

地域社会・学校

老人	老人ホーム慰安・清掃 独居老人宅訪問	老人ホーム&マス招待 地域のお年寄りと交流会	文化祭・吹奏楽に招待 敬老の集いに参加
身体障害者	身体障害者施設手伝い 養護学校交流	身体障害者施設訪問 身体障害者スポーツ大会	キャンプ手伝い 身体障害者音楽会
聾啞	手話講座受講	点字講座受講	聾語学校寄宿舎訪問
養護学校	養護学校交流	養護学校訪問	キャンプ手伝い
一般の人	病院訪問 ボランティア参加	保健所訪問 各種コンサート参加	ベビーシッター チャリティーコンサート
掃除奉仕	川・海岸掃除活動	市内クリーンアップ参加	学校周辺、観光地掃除
募金奉仕	赤十字募金 テレホンカード収集	歳末助成募金 24時間テレビ募金	ユニセフ募金 あしなが街頭募金
交通安全	安全運転ビラ	目覚ましガム配布	カーブミラー清掃
学校	バザー	ボランティア新聞発行	校内花壇作り
環境	水質検査参加	酸性雨調査	

国際理解

外国観光客アンケート	国際教育体験発表会	使用済切手を海外医療会へ
------------	-----------	--------------

インタラクティブプログラムは、奉仕に関心を抱く、将来性豊かな青年男女を指導する機会をロータリアンは得られます。

それに対して、インタラクティブクラブは、提唱ロータリークラブに新しい活力をもたらし、奉仕の斬新なアイデアを提起し、プロジェクトの支援を増します。活発なインタラクティブクラブ、その提唱クラブの奉仕のパートナーとして協力いたします。

インタラクティブクラブの結成は、ロータリークラブが、社会において実施できる活動の中で、最も報いの大きな活動の一つです。

インタラクティブの活動をご理解下さい。

白夜のフィンランド・G.S.E.報告

団長 地区G.S.E.委員会 委員長 佐野 貞夫（京都八幡RC）

5月2日～6月11日、北欧フィンランドのG.S.Eプログラムに参加。1390地区、12クラブを表敬訪問致しました。ポケーションスタディによる企業訪問、友情と信頼の中で、森と湖の自然にとけこんだすばらしい毎日が、あっと言う間に過ぎました。

ヘッキガバナー、エスコG.S.E委員長、来日したアクセル団長を始め、初対面のロータリアン・ホストファミリーの皆様心から感謝の気持ちでいっぱいです。

財団奨学生、米山奨学生、青少年交換学生など、日本で研修体験のある人達が各地で通訳でお世話になり、ロータリーの国際交流のすばらしさを実感いたしました。

団員、櫻井正寛（奈良）、西村徹（京都西北）、三好弘美恵（三国）、村角智恵（大津）の方々です。ロータリー財団教育プログラムの意義を深く受け止め、今後の奉仕活動、職業人として、生涯、このすばらしい体験を生かしてゆくことを約束いたします。



御来光を仰ぐ 富士登山報告

地区国際青少年交換委員会 委員長 松山 隆（奈良RC）

新しいロータリー年度、最初の青少年交換プログラムは、受入学生の富士登山エクスカーションから始まります。7月5日から7日にかけて、恒例の富士登山が開催されました。本人の都合で既に帰国してしまった学生や病欠の学生も数名おり、例年よりは、かなり少な目の12名の参加になりました。

当日、第1回目の公式訪問にも関わらず、西村ガバナー始め、岩佐地区幹事長、小西地区担当幹事やガバナー事務所の沢山の方々の見送りを受け、一路富士へと出発しました。途中、米原で福井方面の学生と地区委員を拾い、総勢21名の参加です。順調にバスは東名高速道路を走り、午後4時すぎには富士山5合目に到着しました。幸い、山頂を見晴らすことができ、記念写真撮影。夕食の後、第一段階の6合目の小屋を目指して登頂を開始しました。6合目で仮眠を取りますが、学生の心はもう山頂に……午前4時を期してガイドさんの注意事項を聞き、いよいよ出発です。4時半ごろには御来光を仰ぐことができました。8合目辺りでは、かなり風が強く、山頂への道中は危険と判断されましたが、皆の思いが通じたのか次第に風も凪いできて、全員無事登頂に成功しました。

夕刻ホテルについても、全然疲れた様子も見せず、夕食後のカラオケ大会では、この1年で覚えた、日本の歌を元気一杯歌って盛り上がりました。彼らの大半は、この富士登山が終わると帰国します。皆と集う最後の機会を、十分堪能した様子でした。



あくる日は、山梨での桃狩りに舌鼓を打った後、諏訪大社の近くにある和太鼓の製作現場を訪れました。御諏訪太鼓の製作過程を見学の後、実際に大太鼓の実演を体験しました。さすがに若者、なかなか堂に入ったもので、かっこだけはすぐに一人前の太鼓打ちの様相でした。楽しかった富士登山も、バスが京都に近づくにつれて終わりに近くなります。京都駅では、皆再会を誓って、別れを惜しみながら、それぞれのホスト先に戻って行きました。

国際交流に少しでも役立つかと思っております。

集う心に未来をかけて

創立25周年を迎えて

京都紫野ロータリークラブ 創立25周年記念事業実行副委員長 岩井 憲治

1976年6月7日、千宗室が地区ガバナー時に創立の当クラブは、25周年を迎え、2001年6月2日、来賓に荒巻京都府知事、榎本京都市長、千宗室 R.I.財団トラスティ、山崎ガバナー、歴代バストガバナーのご臨席を戴き、また市内と関連 RC 会長幹事の方々、そして友好クラブの台北陽明、逗子 RC 会員家族の皆様、提唱クラブのインターアクト、ローターアクト会員と当クラブ会員家族、併せて270名の出席を得て開催。

登録をすまされたお客様は、武者小路千家の協力によるお茶席で一服戴き式典会場へ。式典は、国歌とロータリーソングの斉唱、物故会員に黙祷、来賓来客紹介に続き、室会長挨拶、知事、市長、ガバナーの祝辞、更にガバナーから R.I. 会長メッセージが披露されました。

その後会場4箇所に設けたテレビに映像を流しながら、川中実行委員長が事業報告、続いて歴代会長に記念品を贈りその労をねぎらい、15年以上100%例会出席会員を表彰して式典を終えました。

記念講演に千宗室、裏千家家元をお招きし「これからのロータリー」と題しご講演戴き、クラブとロータリアンのこれからの在り方について、多くの示唆を与えて戴きました。

祝宴は、テリトリー内の上七軒の芸妓さんの祝舞で幕を開け、鏡開き、そして乾杯。なごやかに、そして楽しい交流の場となり、当クラブにとって未来への大きなステップになる式典祝宴でした。

これまでに戴いた、皆様のご友情とご支援に感謝致しますとともに、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



手をたたこう声をかけよう肩をたたこう 創立25周年を迎えて

長浜東ロータリークラブ 会長 澤 直樹

長浜 RC のアデショナルクラブとして1976年（昭和51年）2月20日、地区内48番目、県内11番目のクラブとして誕生。当時365地区、千宗室ガバナーをお迎えして認証状伝達式が盛大に挙行されました。

爾来、歴代会長を先頭に、クラブ活動の柱である「みどりの森」事業、親睦の根幹である「手をたたこう」「声をかけよう」「肩をたたこう」を全会員が大切に、ここに25周年を迎えることとなりました。

記念事業として、時代の要請である環境保全と福祉の充実に焦点化して、長浜新川の左岸に「ソメイヨシノ」を88本植栽し、車椅子をテリトリー内1市4町に200台寄贈いたしました。

記念式典は、5月26日長浜ロイヤルホテルに於て、川島信也市長、千宗室 R.I. 元理事、R.I. 財団トラスティ、山崎時雄地区ガバナーはじめ、多数の来賓のご臨席を賜り、心温まるご祝辞を頂きました。

記念講演は、国松善次知事による「滋賀から環境を考える」で、時流に適し、時代のニーズにこたえたもので、会場は盛大な拍手に包まれました。

記念講演後、華やかな鳳蘭さんを迎えて、時間を忘れさせるような明るく楽しい記念祝宴となりました。

ご参会下さいました皆様方、誠に有難うございました。今後共相変らぬご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



スマートで格調高く

創立25周年を迎えて

生駒ロータリークラブ 会長 宿 敏幸

1. 大和郡山ロータリークラブを、スポンサークラブとして1976年6月11日に発足しました。初代、亡松本実道会長提唱の「親睦を基調とした、スマートで格調高いロータリークラブ」を目標として、頑張ってまいりました。
2. 25周年記念事業に向けては、2年前から吾郷実行委員長のもと、クラブ全体で準備をしてきました。
3. 25周年に、地域社会へ奉仕をしようということで、
生駒市30周年の記念事業に、色々と使われるジャンパー300着を寄贈すること。
生駒消防署に、消防用広報自動車、1台を寄贈させて頂きました。
4. 台湾の屏東ロータリークラブと、24年来の国際交流を深めており、同クラブより会員、家族を含めて22名が式典及び祝宴に参加して頂き、祝宴の杉山パストガバナーの乾杯の折に、心のもった熱烈歓迎の挨拶が有り、華を添えて頂きました。
5. 式典には、山崎R.I.2650地区ガバナーはじめ、多くの来賓の皆様、生駒クラブ会員家族、台湾屏東ロータリークラブの皆様等、多数の出席で、盛会のうちに挙行できましたことを厚く御例申し上げます。
6. 記念講演には、烏帽子山最福寺法主、池田恵観氏の「心を鍛えれば運が開ける」というロータリー精神と通ずる、格調の高い話をして頂きました。
7. 祝宴には、OSKの三番叟、レビュー等も有り、賑やかで華やかな内に終ることができ、関係者各位の皆様に、心から感謝する次第です。



ロータリー精神の高揚を

創立10周年を迎えて

京都中ロータリークラブ 会報・広報委員長 村田 知之

2001年6月16日(土)、創立10周年を祝う、創立記念例会を開催しました。

京都府副知事、京都市長のご臨席を仰ぎ、創立時依頼、支援を続けている京都頸髄損傷者連絡会の代表、またボーイスカウト代表をはじめ、姉妹クラブである香港湾仔ロータリークラブ、台北城南ロータリークラブ、浜松中ロータリークラブの皆さんや、地区ガバナーをはじめ、大勢のご来賓に加えて、日本でその名前に「中」がつくクラブへ呼びかけたところ、宝塚中ロータリークラブと越谷中ロータリークラブからたくさんのロータリアンの参加をいただき、総勢約280名の出席を得、10年の歩みを振り返り、次の10年へ向けて、ロータリー精神の高揚を目指して、研鑽、活動することを宣言して閉会いたしました。

尚、当クラブの10周年の歩みにつきましては、

URL : www.meix-net.or.jp/~rotary/
をご覧ください。



最優秀ガバナー賞 福井南RAC「地球について考えよう!!」ローターアクト地区大会

地区青少年担当幹事 片岡 宏二(京都南RC)

R.I.第2650地区ローターアクト地区大会「前夜祭」が、5月26日(土)ホテルグランヴィア京都にて、「本会議」が27日(日)シアター1200にて山崎時雄ガバナー、大日方弘明直前ガバナー・青少年担当諮問委員、西村二郎ガバナーエレクトのご出席のもと、多くのロータリアン、ローターアクターが出席して盛大に開催された。

「前夜祭」はボクシング等のリングが設営、北村憲司地区ローターアクト代表の開会宣言、ソングの斉唱。大日方直前ガバナーのご挨拶・乾杯と続き祝宴。リング上では寸劇・歌等のアトラクションで盛り上がった。

青少年担当幹事の講評のあと、リング上で大日方直前ガバナー、玉井ローターアクト委員長、松村青少年委員長、岡青少年担当幹事が各々胴上げされ宙に舞った。

「本会議」は、シアター1200に会場を移して開催された。開会宣言・開会点鐘・国歌・ローターアクトソング斉唱に続いて、山崎時雄ガバナーより挨拶があった。地区ローターアクト代表アドレスは、パソコンのパワーポイントを使用して行われ、IT時代にふさわしいものだった。ガバナー賞、及びローターアクト代表賞、ローターアクト委員長賞の表彰式では、最優秀ガバナー賞に、福井南ローターアクトクラブ「地球について考えよう!!」、ケナフについての事業が選ばれた。

卒業式では一人一人が挨拶し、ローターアクト活動を振り返った。最後に大日方弘明直前ガバナー・青少年担当諮問委員のロータリアン講評、そして“手に手つないで”を合唱し閉会となった。



広報・雑誌 ひとくちコラム

地区広報・雑誌委員会 委員長 伊藤哲雄(京都洛西RC)

「広報」とは

「ロータリーを理解してもらうためには、より多くの人々、ロータリアンは勿論、ロータリアンでない一般の人々に、ロータリーの良さを知らせることが大切です。ただ、個人的な範囲では、多くの人に知らせると言っても限界があります。そこで広報という手段が必要になるのです。」

ロータリー創設者ポールハリスが残した広報についての言葉です。

ロータリーの「広報」の語源は、“Public Relations”です。ロータリーの歴史を伝え、あなたのクラブの素晴らしさを伝えることで、正確により良くロータリーのイメージを地域社会に広めることができます。特に新世代には、次代のロータリアン予備軍として、ロータリーのことを正確に理解してもらう必要があります。

広報のやり方は、国によりいろいろです。しかし、国による文化の違いを別とすれば、世界のロータリークラブには、ロータリーのことを伝えるべき人々が控えています。メッセージを吟味し、それを伝える適切な方法を見つけることにより、広報は、会員増強のひとつの有用な手段となります。



ポールハリス

国際ロータリー公式ウェブサイトより抜粋

クラブだより

こどもエコクラブ全国フェスティバル 2001 in びわこ・くさつ

草津RC青少年委員会
委員長 田伏 重宗

地域の中で環境に関する学習や活動を主体的に行えるように、次代を担う子ども達を支援することを目的として平成7年6月に環境庁の呼びかけでスタートしました。

今年度は、滋賀県が担当となり、草津市を中心に二日間（3月24日・25日）立命館大学びわこ・くさつキャンパス、琵琶湖畔烏丸半島に於いて開催。「ケナフの紙漉き体験コーナー」に決定。山田小学校生徒・先生・クラブ会員・ロータリーアクトの共同体で取り組みました。

ケナフをプールにつけて柔らかくし、皮をむき・小さくし・圧力鍋にかけ・さらにミキサーにかけ・冷水につけたり等大変な作業でした。皆の努力で、紙漉き糊が完成しました。この工程に、会員とアクトも参加しましたが、2月という寒さのなかで冷水でケナフを洗うのは大変で、生徒たちは授業の合間や、授業後、夜遅くまで取り組んでくれたことをお聞きし、会員一同胸が熱くなる思いでした。

雨にもかかわらず、全国こどもエコクラブ会員等、約7500名が参加、大盛況でした。クラブより、ケナフの種5000袋配付、アイロン・アイロン台各10台学校へ寄贈をしました。



全日本ロータリークラブ合唱祭

福井南RC ダンディ合唱団

会長 田中 文夫

第7回全日本ロータリークラブ親睦合唱祭が5月26日(土)、大分の別府で開かれました。合唱の喜びを通じて、親睦を図るといふ素晴らしい集まりでした。

京都洛中RC(男性合唱)・京都洛中RC(女性合唱)・びわ湖八幡RC・京都西北RC・京都伏見RC・福井南RCの5クラブが参加。日頃練習してきた歌を披露しました。

第8回は、当地区の福井にて、2002年5月25日(土)に開催されます。多数のご参加をお願いします。

問合せ先：福井南ロータリークラブ事務局

TEL 0776-27-2734

FAX 0776-27-2834



参加しよう

インターシティ・ミーティング第1組・滋賀

テーマ：レイクびわ1400 - きれいな水を次世代へ -

日 時：9月8日(土) 12:00~18:00

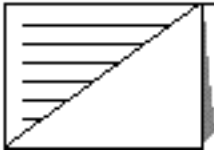
会 場：長浜市民会館

ホストクラブ：滋賀湖北RC 会長 前畑 稔

実行委員長：中川豊太郎

ゼネラルリーダー：山崎時雄直前ガバナー

参加クラブ：びわ湖八幡、五個荘能登川、彦根、彦根南、甲西石部、草津、水口、守山、長浜、長浜東、大津、大津中央、大津東、大津唐橋、大津西、近江八幡、栗東、滋賀湖北、高島、野洲、八日市、八日市南(22RC)



クラブだより

青少年プラスコンサート

京都西山RC 広報委員会
委員長 小塚 健恒

5月12日(土)、長岡記念文化会館において、京都乙訓ロータリークラブと合同で「乙訓青少年プラスコンサート」を開催し、2市1町のテリトリー内にある8中学校の吹奏楽部が集まり、日頃の腕を市民の皆様に披露しました。

今回は、第10回になり、京都府警察音楽隊と、カラーガード隊にも出演を願い、約1000名の鑑賞者の注目を集めました。



森と遊ぼう自然体験学習

甲西石部RC
青少年委員会・環境保全委員会共同事業

晴天に恵まれた6月2日(土)、青少年委員会と環境保全委員会共催によって、「森と遊ぼう自然体験学習」が甲賀郡石部町「寿楽の郷」で行われました。甲西石部町の子供会やスポーツ少年団の子供たち約100名と我々会員とで「巣箱づくり」に挑戦しました。悪戦苦闘している子供、なぜかすんなり造ってしまう子供等々でした。

会員のサポートよろしく全員見事に完成し、個々に持ち帰り、思い思いの場所に巣箱を置いて鳥の観察や自然の畏敬等、大いに役立ててくれるものと思います。終了後、宝探しで素敵な景品をもらい、喜び楽しそうな顔をしているのが印象的でした。

我々会員も子供たちに教えられることが多々



ありました。久しぶりに汗を流し、子供たちとのコミュニケーションも取れ、この事業が大成功に終わったように思います。

文庫通信

新着資料抜粋

「若人の未来を考える 筑紫哲也と大いに語ろう」	2000	40頁 (D.2650地区大会公開討論会の記録)
「子どもたちの未来を考える」 グレゴリー・クラーク	2001	14頁 (D.2800地区大会講演)
「石見のジェンナー頌徳碑」	朝枝 善照	2000 5頁 (D.2690地区大会講演)
「森と暮らす、森に学ぶ」	柳生 博	2000 9頁 (D.2690地区大会講演)
「私の相撲人生」	舞の海秀平	2001 4頁 (D.2830地区大会講演)
「作陶50年を顧みて」	島岡 達三	2000 5頁 (D.2550地区大会講演)
「企業の発展は働く人の感性で決まる」	山東 昭子	2001 9頁 (D.2800地区大会講演)
「日本経済再生へのシナリオ」	樋口廣太郎	2000 8頁 (D.2620地区大会講演)
「これからの日本」	竹村 健一	2001 13頁 (D.2590地区大会講演)
「21世紀へおはよーさん」	榎本 勝起	2001 2頁 (D.2830地区大会講演)
「ロータリーの道・未来への道」	千 宗室	2000 5頁 (D.2650地区大会講演)
「世界のポリオ根絶に向けて」	尾身 茂	2000 6頁 (D.2650地区大会講演)
「印象にある『ロータリーの友』の記事より」	佐志田由郎	2001 12頁

[申込先：ロータリー文庫]

〒105-0011

東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7階 TEL (03) 3433-6456・FAX (03) 3459-7506

<http://www.rotary-bunko.gr.jp>

ガバナー表敬訪問

2001年7月5日(木) 彦根ロータリークラブ



会長 石島 裕・幹事 廣瀬安彦

西村ガバナーの公式訪問は、山崎直前ガバナー、石島会長等のお出迎えを受け彦根クラブからスタートしました。流石35万石の城下町にあり、来期50周年を迎えられる風格あるクラブとお見受けしました。
(小林哲夫記)

2001年7月6日(金) 京都東ロータリークラブ



会長 橋本長平・幹事 津田知宏

昨年創立45周年記念を終えられた歴史と品格あるクラブで、平均年齢66才10ヶ月と高い目であるが、今年度会長テーマ「世代間較差の縮小を！」のもと、50周年へ向かって力強くその第一歩を踏み出されたことが、強く印象に残った。
(田中俊介記)

2001年7月7日(土) 京都北ロータリークラブ



会長 小野内悦二郎・幹事 上田両四郎

川島、本田と二人のガバナーを出された伝統あるクラブ。この5年間に会員が減少したのが大きな悩みで、土曜日例会がネックとお聞きしましたが、若い会員も少しづつ入会され今後の活性化に大いに期待できるようです。
(小林哲夫記)

2001年7月10日(火) 大津ロータリークラブ



会長 森本 章・幹事 白井勝好

過去に山口、細田両ガバナーを送り出された51年目のクラブ。ロータリーは紳士の道場ですと言われる森本会長のもと、最もロータリーらしい運営をしておられるクラブとお見受けしました。12時からのピュッフェ食事はユニークです。
(小林哲夫記)

2001年7月11日(水) 京都ロータリークラブ



会長 富田謙三・幹事 佐竹力總

過去10名のガバナーを輩出され、内4名が現に活躍しておられる地区の中心としてのクラブ。伝統と格式を備えられと共に若手メンバーの活躍もめざましく、地区の模範となるクラブと拝見。今後のご指導をお願いしました。
(小林哲夫記)

未来への発信

シンプルでわかりやすく



大和高田 R C 松尾 光至

ロータリークラブに入って2年余りが経ちましたが、まだまだ、教えてもらうことばかりの、新米ロータリアンです。いろいろな話も、その含むところまで理解できず、まして「手続要覧」の判りにくさには、これを、日本語に訳した方々のご苦労に頭が下がります。

十年一昔といわれますが、今や5年でも世代格差があり、子供たちの世代では、1年2年違つと世代が違って理解できないと言います。だんだん言葉も直接的になり、言葉の含むところも、理解されにくい時代になってきています。そんな中で重要なことが、「シンプルでわかりやすく」ではないでしょうか。

「ロータリーの綱領」を覚えようとする少しづつ努力が要りますが、「四つのテスト」は知らず知らずのうちに覚えてしまいます。「四つのテスト」のようなシンプルでわかりやすい表現は、世代を越え、クラブの外でも理解されるでしょう。

言葉だけでなく、活動においても同様なことが考えられます。シンプルでわかりやすい活動は、活動する者にも理解しやすく、我々の活動を外部の人に知ってもらう意味からも、重要なことではないでしょうか。

シンプルで、わかりやすいロータリーになっていくことが、若い世代に広げていくためにも、重要なことだと私には思えます。

一人十色（ひろりという）



京都紫野 R A C 会長 中島康喜

地区内36番目のロータリーアクトクラブ、京都南Aゾーン、京都紫野ロータリーアクトクラブのチャーター会長、初代会長を務めさせて頂いております。

我がクラブは、新世紀と共に産声をあげました。私のアクト歴も、我がクラブ誕生と共ですので、8ヶ月でございます。そんな私がアクトについて思うこと、それはたくさんの人との出会いの場であり、自分自身の勉強の場だと思います。

第一にたくさんの人との出会い、普通なら知り合うこともないでしょう先輩や後輩、他の職業の人達と出会い、語り合い、一つのことを一緒に作っていただける場、こんな場が他にあるでしょうか？

第二に自分自身の勉強、それは如何にリーダーシップを発揮できるか。昔からある言葉では『十人十色』と言いますが、私は今現在『一人十色』の時代だと思います。そんな個性的な時代にどのように人をまとめ、リーダーシップを発揮して何十色もの色から一つの色を作り出せるように考え、楽しみ、挑戦することです。

今年度のローターアクト地区テーマ『明日へ』。夢や希望をもって進み21世紀を僕達アクトが作っていただけるように頑張りたいと思います。最後になりますが、ロータリアンの皆様には教えて頂くことばかりですが、私達ローターアクトからも、何か感じて頂けるよう勉強して参ります。

今という時間を大切に.....

未来への希冀

ロータリークラブに望むもの



福井 R C 野村 直之

私が入会時に、R C から交付された355地区パストガバナー前原勝樹氏の「ロータリー入門書」には、R C の真髓が語られているように思います。すなわち R C は、会員相互の友情を基盤とする奉仕者の養成・訓練機関であり、会員による職業奉仕等を通じて、社会に貢献することを目的とする団体であるということです。

この基本理念に照らしたとき、現在の R C が、その存立の意義を十分に生かしているか疑問なしとは言えないのではないのでしょうか？ もっと目的完遂のための、コンパクト且つシャープな団体であってもよいと思います。2日間もかけて開催される地区大会、次々と肥大化する組織、事業と数多くの会議・セレモニー、何かにつけ伴う豪華な飲食、会費その他の多額の金銭的負担などは、原点に立ち返って見直されるべきではないのでしょうか。

近年、会員の減少が問題となっておりますが、R C に投ずる金銭、労力、時間的負担を上廻る成果、充実感が得られなければ、R C を去っていく人が出てくるのは、当然のことのように思われます。

別に私も、これといった腹案を持っているわけではありませんが、このようなぜい肉的部分を削り落とし、会員が、R C の一員であることを誇りに思い、これを公言できる（ステータスとして語るという意味ではなく、R C の活動を行ったことにより、このような人間的成果、精神の高揚を得ることができたということ語りたいたいものです。）充実した R C、別の言葉で言えば「R C の会員の方は、さすがにいい仕事をされる」と、世間から評される R C であって欲しいと思います。

もてなしの心を



檀原中央 R C 吉川 隆博

ロータリークラブに入会させて頂いてまだ1年余りの新入会員が、拙い原稿を書かせて頂くことをお許し下さい。私がロータリークラブに入会してまず感じたことは、メンバーの皆様の暖かさでした。先輩諸兄に比べ経験も年齢も浅い私を、対等に温かく迎えて下さるこの広い心が、ロータリー活動の原点になっているのだとつくづく思いました。

ある時先輩から、「ロータリークラブの活動は、We serveではなく、I serveなんだよ。」と、教えられました。クラブとして地域に、社会に貢献しているクラブの活動が、なぜ I serveなのか私には疑問でした。

そんな時、ふと以前に読んだ「木を植えた男」の話思い出したのです。例会をはじめクラブでの活動を通して様々な経験を積むことで、メンバー一人ひとりが力を蓄え、それを糧に職場や地域で今度は自分が奉仕する。クラブはそのような奉仕の木を育てる森なのかもしれないと思うようになりました。

その森に、私のような若木もどんどん入れるように、今度は自分が行動をおこせるロータリアンになりたいと考えています。

心の乾きが言われる今こそ、社会に、人の心にロータリアン精神を広げていかなければと強く感じています。そのためにも、私の心の中に「もてなしの心」ホスピタリティーの芽を育てなければと考えています。



ゴルフ同好会のこと

関谷 松男（長浜RC）

何ごとによらず、自分に適った趣味をもつということはすばらしいことで、ともすれば辛いことや哀しいことの多い人生の日常をしばし忘れさせてくれますし、もっと大げさにいえば自分が耽れる趣味のあることが、生きていく上での原動力になっている場合さえあります。

わが長浜ロータリークラブには、趣味の会として、ゴルフ、ダンス、麻雀の3つの同好会があります。このうちゴルフ同好会がもっとも活発で、登録人員が約40名、隔月に開催されるコンペには、最低でも20名以上の参加があります。「暮敵は、にくさもにくし、されど会いたし。」のことは通り、毎週顔を合わせ、お互い気がおけないだけに、ライバル心も旺盛で、コンペの前にはひそかに練習場に通って調整をされておられるようです。また50の手習いで、ロータリークラブに入ってから、ゴルフを始められた方も何名かおられますが、練習の成果でしょうか、ほぼ一年間で長足の進歩をとげられ、平均の腕前になられるのは、さすがロータリアンと妙なところで感心をしています。

大きな声では言えませんが、私にとってゴルフ同好会があることが、ロータリーに所属している最も大きな要因かもしれません。気心の知れ渡ったライバル達と、この奥の深いスポーツを究めていけることに、感謝と喜びを感じている次第です。

我等が桜井ロータリークラブ

北川 慈照（桜井RC）

“大和は国のまほろば”我が桜井ロータリークラブは、日本の国の発祥の地であり、万葉のふるさとである桜井市をテリトリーの中心として、昭和50年に発足いたしました。

爾来、歴史と豊かな自然を背景に、26年間活動を続けてきたクラブです。

現在、会員は59名ですが、会員の中に派閥もなく、和気藹々としたクラブであるのが自慢です。

委員会活動も活発で、特に青少年活動委員会が中心となり、毎年行っている桜井ロータリークラブ主催の青少年健全育成柔剣道大会では、全国から少年、少女の選手が参加します。同じく毎年、社会奉仕委員会が中心となって行われる青少年育成アーチェリー大会では、若い選手が多く参加し、この取り組みに対し、地区よりガバナー賞を戴いたこともあります。

親睦活動も活発で、県下ロータリークラブゴルフコンペでは常に上位、さらに今年、3月に行われた県下ロータリークラブ親睦ボーリング大会では、チームワークと実力を発揮して、総合優勝及び個人優勝の両方とも獲得、他クラブから恨まれる？という好成績をあげました。

今年度も奉仕の理想のテーマを高くかけ、和気藹々の中にも、節度をもって楽しく有意義なクラブでありたいと願っています。





甲子園大会で優勝したこともある野球同好会 丹下 康夫（京都紫野RC）

私のクラブには、9つの同好会があります。

楽紫会（食べ歩き会）は、当該年度のクラブ副会長が世話役になり、一年に一度このお店は美味しいと言われている料理を楽しむ会で、多数の会員の参加を得て実施され、いつも好評を博している同好会です。

MRG（ゴルフ同好会）は、毎回二十数名の参加者で、年に4～5回のコンペが開催され、また時々他クラブとの合同コンペもあり、クラブ間の交流の一助ともなっております。

茶道同好会は、当クラブ会員に茶道関係者が多く、様々な企画でお茶を楽しむ会が催されております。

ほろにが会は、京都市内クラブ会員と共に、毎月第二火曜日にビールを楽しんでいます。

野球同好会は、今から13年前、甲子園球場に於ける全国ロータリークラブ野球大会で優勝し、念願の全国制覇を果たしました。しかし、その当時の強豪チームも、13年の年月と共に平均年齢も上り、最近では人数不足等で、残念ながら出場できないことも多くなりました。若い会員の入会により、夢をもう一度取り戻したいものです。

囲碁同好会、将棋同好会は、好きな会員同士が気軽に楽しんでいます。

旅行同好会は、二・三年に一度、海外旅行を楽しんでおり、これは国際奉仕にも多少貢献しているかもしれません。

パソコン同好会は最も新しい同好会ですが、これから徐々に活発に活動していくのではないかと思います。

以上が同好会の現状ですが、同好会が活発に活動することにより、クラブの活性化が図られ、強いては会員増強にも繋がるのではないのでしょうか。



山歩き同好会

小池 恭弘（奈良大宮RC）

山歩き同好会が、平成10年8月に会員の健康と友情を深めるために設立されました。

第1回の山歩きは、平成10年8月9日『生駒山～信貴山』までの縦走でした。参加者は5名で、土砂降りの雨のなかを歩きました。

以後、平成13年4月まで、24回の月例山歩きを開催いたしております。我が同好会は、怪我のない身体に無理のない、奈良県近郊の山を家族の参加もできるハイキングなども行い、コンロを持参して、昼食事時に1品『豚汁』などを作り、ワインを飲みながら楽しく自然を満喫するようにしております。

平成13年に行いました、登山山行を簡単に報告します。

平成13年1月1日、第21回 御来光登山『生駒山』参加者7名。近鉄主催の21世紀の幕開け『元旦ご来光ハイク』に参加。牧岡神社より、雪の舞う暗やみのなか、懐中電灯を照らしながら生駒山に登る。あいにくご来光は天候悪く見ることはできませんでしたが、山頂にて中井シェフ特製の『ぜんざい』を頂き、日本酒、シャンペンにて新年を祝う。

平成13年2月11日、第22回 『三峰山』樹氷登山参加者5名。御杖村にあるみつえ青少年旅行村より、奈良県と三重県の県境に存在する三峰山に向かう。

尾根道より道はアイスバーンと雪になり、全員アイゼンをだし登山靴に付ける。アイゼンを付けて歩くと、氷のきしむ心地よい響きと歩く安定感がでる。山頂に近づくと、空は青空、まわりは雪景色と霧氷と樹氷のお出迎え、最高の景色に感激する。

平成13年3月18日、第23回 早春の『住塚山、国見山』5名参加。杉の花粉にまいる。

平成13年4月29日、第24回 新緑の『大洞山』5名参加。三重県三多気の山桜は遅し。

今後も月1回の山登りを計画し、親睦と友情を深めるようにしております。

